

# とくべつしせきいちじょうだにあさくらしいせき 11. 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

所在地：福井市城戸ノ内町字上城戸

調査原因：調査整備事業（第138次調査）

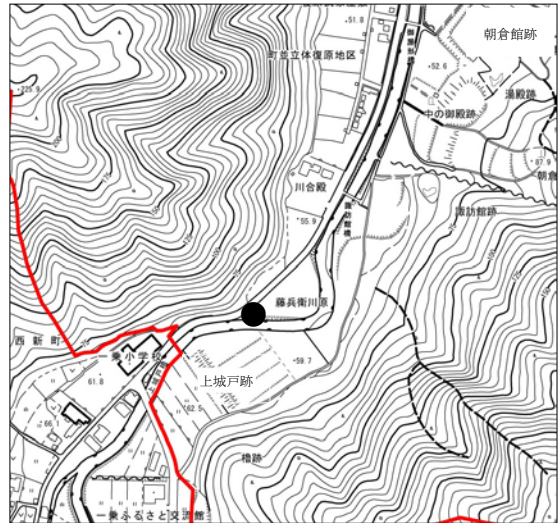
調査期間：平成24年8月22日

～平成24年12月7日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：約900㎡（対象面積約8,000㎡）

時代：室町時代（戦国）



位置図（S=1/10,000）

**調査の概要** 上城戸跡付近は、昭和45年に行われた土地改良工事の際に、ブルドーザーで荒らされたために、大量の遺物が露出し遺構が破壊されたとみられる場所です。なお、この上城戸跡付近での工事をきっかけに遺跡の保存意識が高まり、翌、昭和46年には278ヘクタールの広大な土地が特別史跡に指定され、保存されることになったのも事実です。

過去の発掘調査は、昭和63年度に上城戸土塁跡と濠の一部で行われています。その結果、土塁北裾で東西道路を確認しています。しかし、城戸の入口や館方面に向かう幹線道路は確認されませんでした。平成24年度より、城下町の重要な防御施設である上城戸跡周辺部の都市構造の解明のための発掘調査を継続的に進めることになりました。平成24年度は、上城戸跡北側の約8,000㎡を対象にした幅4mのトレンチ調査を行いました。

**遺構** 第1トレンチと第8トレンチの2箇所朝倉氏の最終時期の道路跡を検出しました。第1トレンチの道路跡は、土塁北裾の東西道路と一乗谷川沿いの南北道路を結ぶ部分になります。第8トレンチの道路跡は、現在遺跡見学ルートの遊歩道があるため道路の東端を調査で確認できませんでしたが、幅が8m以上もある広い道路跡でした。しかし、この道路跡の砂利敷き層が薄いことと、下層に16世紀の遺物が少量であるが混じっているため、城下町の構築当初からの道路ではないことは明らかと言えます。この他、第1トレンチで合計7基の石積施設を検出しました。これらの石積施設の間には通路があり、底の深さが階段状に深くなるのが特徴的で、一乗谷での石積施設の主な用途として便所・水溜め・倉庫が考えられますが、これらの石積施設は何らかの特殊な用途で使われた可能性もあります。また第4トレンチでは、一辺の幅が約2.7～3.4mで、深さが約0.5mの大型の石積施設を検出しました。一辺の中央には昇り降りするための踏台の石が据えられ、礎石とみられる石が部分的ではあるが確認されるため、屋内に造られた半地下式倉庫となる可能性が考えられます。

**遺物** 特に重要な遺物として、直径19cmの大型の鏡が、第1トレンチの石積施設から出土しました。日常使われる直径約9cmの姿見の鏡よりも約2倍の直径があり、神社などに御神体として奉納される鏡と考えられます。また、狛犬の破片なども出土しており、付近に神社が存在した可能性も考えられます。

